

語り公演 霜月の会

森鷗外は樋口一葉を「まことの詩人」と称賛した。

親子の情愛、夫婦の齟齬と子供、さらに初恋の行方、

ここには時代を超えた真実が描かれている。

十三夜

樋口一葉作

語り 藤堂叶倫

尺八 友常毘山

演出 笠井賢一

2023年 11月4日(土) 午後1時30分開演(午後1時開場)

鏗仙会能楽研修所

場所詳細
裏面参照

主催 恵比寿朗読スタジオ
<http://toudoukarin.com>



協力 藤堂叶倫朗読教室

料金 当日: 3,000円 / 前売り: 2,500円 全席自由

恵比寿朗読スタジオ
■電話: 050-3708-4798
■メール: lily-yarn@toudoukarin.com
■ホームページ: <http://toudoukarin.com>
ホームページ内お問合せサイトよりお申し込みください。

料金
チケット
取扱

樋口一葉作「十三夜」あらすじ

お関は十七歳の正月、追羽根して遊んでいて、通りかかった

政府高官原田勇に見初められ、強引な求婚により嫁入りする。しかし子供ができた頃から夫の態度が急変、お関を教養のない身とさげすむようになる。息子太郎の為にと辛抱を重ねるが、とうとう耐え切れずに息子を殺して実家に帰る場面からこの物語りは始まる。結婚から七年後の「十三夜」である。

娘の里帰りを喜ぶ両親に、原田の非道を綿々と訴え離婚状をと懇願する。母は身分違いを承知の結婚、約束が違ふと激怒。父もお関の苦しみに驚くが、弟が今の仕事も原田さんのおかげ、離縁をしたら一度と子供には会えぬ。それより母として生きろと、娘の苦しみを察したうえで、涙はてんでに分けて泣こうぞと諭し、目をぬぐう。お関も大泣きし、私さえ死んだ気で、魂一つになって息子を守ると覚悟。流しの人力車を呼び、子供と夫のもとに帰っていく。

秋も終わりの十三夜の月の下を行く人力車。突然車夫は車を引くのが嫌になった、代はいらない降りてくれという。驚くお関。月に照らし出された車夫の顔は、お関が幼い頃から慕っていた幼馴染で繁盛する煙草屋の一人息子録之助であった。録

之助は、七年前にお関が嫁に行くと、家業を放り出し、放蕩に身をもち崩し、家も失い一家離散、車夫になってその日暮し。身を恥じた録之助が車に

乗るよう勧めるが、お関はそうと知っては乗れない、せめてほかの

車に乗れる所まで道連れにと、二人歩きながら身の上話を

する。互いがお互いへの想いを胸に秘めながら、

それぞれの場所へと帰って行く。



語り
藤堂叶倫
とうどうかりん

東京都出身。日本大学芸術学部卒業。劇団「青俳」養成所にて演技の基礎を学ぶ。

語りを演出家 笠井賢一氏に師事。朗読を女優、声優 鈴木弘子氏及び井上俊治氏に師事。

アジア詩人会議、井上靖生誕百年祭にて井上靖作「漆胡梅」他を朗読。グルックススタジオ主催、愛の詩人新川和江の世界にて新川氏講演と共に「名づけられた葉」他を朗読。川越道子作品展にてモーパッサン作「狂女」を朗読、尺八奏者三橋貴風氏と共演。令和三年度(第76回)文化庁芸術祭参加公演 藤堂叶倫朗読公演霜月の会にて浅田次郎作「うらぼんえ」、森鷗外作「高瀬舟」を朗読。その他舞台朗読家として多くの作品を朗読。

国際芸術連盟主催「朗読オーディション」並びに「朗読コンクール」審査員。

京急百貨店カルチャーCOTONOWAにて「朗読基礎講座」「朗読応用講座」講師。

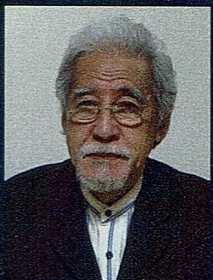
藤堂叶倫朗読教室 / 恵比寿朗読スタジオ代表 <http://toudoukarin.com>



尺八
友常毘山
ともつねびざん

東京都出身。幼少より代々受け継がれてきた家伝の弓術、剣術、茶の湯、香、法螺貝の手ほどきを父より受ける。千葉大学文学部史学科卒業。東京藝術大学音楽学部邦楽科尺八専攻卒業。同大学大学院修士課程を経て、博士課程修了、博士号(音楽)を取得。現在同大学教育研究助手を務める。

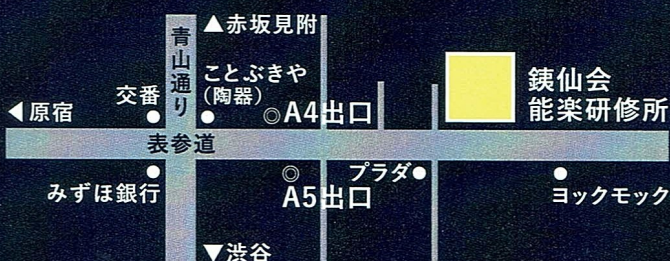
尺八を初代山本邦山師(人間国宝)、野村峰山(人間国宝)に師事。2013年ハバロフスク、サンクトペテルブルグにて日露文化交流演奏を務める。2014年北京にて音楽学院同士による日中交流演奏を務める。2015年ベルリンにて大使館主催の日独交流演奏を務める。2017年デンマークにて日丁交流150周年記念演奏を務める。2018年揚州にて日本文化紹介演奏を務める。2021年度文化庁「新進芸術家育成事業」における三曲新進演奏家研修修了。大学などで後進の育成にも力を入れる他、舞台、映画、テレビ、ラジオの収録も手がける。



演出
笠井賢一
かさいけんいち

1949年生まれ。歌舞伎研究の今尾哲也氏に師事。歌舞伎俳優・八世坂東三津五郎の秘書として著作の助手を務める。1983年から観世流「鏡仙会」のプロデューサーとして能・狂言の普及活動や海外公演も手掛ける。劇作家、演出家として古典芸能と現代劇を繋ぐ演劇活動が続ける。

「古事記」「源氏物語」「平家物語」その他宮沢賢治の作品群をはじめ、泉鏡花作語り「天守物語」ニューヨーク公演・松坂慶子、近松門左衛門作「曾根崎心中」語り芝居・若村真由美等の演出を手掛ける。東京藝術大学邦楽アンサンブル「竹取物語」「賢治宇宙曼荼羅」、石牟礼道子作「不知火」、多田富雄作「一石仙人」等新作能を多数演出。近年は樋口一葉作品の魅力を伝える演出も多く手掛ける。著書では、最新刊「芸能の力一言霊の芸能史」(藤原書店刊)他多数。玉川大学芸術学科・東京藝術大学非常勤講師を歴任。アトリエ花習代表 <http://atelierkashu.com>



鎌仙会能楽研修所

東京都港区南青山4-21-29
TEL03-3401-2285



アクセス

地下鉄(銀座線・千代田線・半蔵門線)
表参道駅下車 A4出口より徒歩3分

※駐車場はございませんので、お車でのご来場はご容赦ください。
※当研修所は、入口にてお履き物を脱いで頂き、階段にて2階会場に上がって頂きます。エレベーターはございませんので予めご了承下さい。